

## 令和5年度鹿児島学習定着度調査結果

令和6年1月16日(火)・17日(水)の両日、全県下の小5、中1、中2の全児童生徒を対象とする鹿児島学習定着度調査が実施されました。この調査は、1年間の学びの定着度を確認し、生徒個々の学びや指導法の改善に生かすために、毎年実施されているものです。その結果は、下の表のとおりでした。

(令和6年2月20日現在の速報値)

令和5年度		国語	社会	数学	理科	英語
1年	県	75.9	54.4	74.3	66.3	77.0
	本校	76.6	53.2	72.5	66.4	74.6
2年	県	65.6	62.3	68.8	66.9	71.4
	本校	67.0	60.6	68.4	70.7	69.9

県の平均通過率と比較したところ、昨年度と比較してポイント差が改善している学年・教科もありました。しかし、約半数の教科において県の平均通過率を下回っており、市の平均通過率と比較しても、ほぼ同様な結果となりました。

また、全ての学年・教科において、「無回答率(回答欄が空欄である割合)」は県の平均や市の平均より高いという結果でした。

今回の調査結果をもとに、各教科部で分析を行いました。その結果、間違うことが次の深い学びにつながるため、積極的に解答に取り組むことが大切であるということやどの教科においても「読み取る力・表現する力」、「その際に必要な知識や語句との関連付け(理解力の育成)」が必要であるということが分かりました。

そこで、学校全体としての「共通実践事項の目標」を次のように設定しました。

問題などを読み取る力を育成するとともに、既習の知識や語句を正しく理解し表現の際に関連付けて活用できる力を育成する。

この目標をもとに、各教科で次のような取組を行ってまいります。

- 教科書を速読させて長文に慣れさせる。大事な部分に線を引かせるなどの対策をとる。
- 説明問題や考えさせる問題に個人やグループでじっくり取り組ませたり、ポイントを絞らせ箇条書きにさせたりする。
- 資料との関を説明する場面で、ワークシート等を活用して最終的に自分の言葉で説明できるようにする。